2017年度事業報告

2017年4月1日より2018年3月31日

特定非営利活動法人フェア・プラス

2017年度は当初重点項目として、以下の3項目の取り組みを行った。

1. フィリピン・マリナオ村への総合的支援（アバカ製品の質の向上と生産体制の確立、作業環境の改善、素材であるアバカ繊維の自給自足体制作りと自然環境保護の意識向上）
2. 障がい者問題についての啓発活動の実施および企業と施設の連携強化
3. 幅広い分野で活動する人たちとのネットワークの充実、連携強化

取り組みの詳細は以下の通り。

1. 基盤整備
2. 事務局体制

事務局長（常勤）、経理担当スタッフ（非常勤）が日常業務を行うとともに、百貨店での販売、ツキイチカフェなどのイベントはアルバイトおよび学生ボランティアにより進めた。

1. 啓発活動事業

実施日時：　通年　　　会場：京都ひと・まち交流館、東山いきいき市民活動センター他

従事者の人数：延べ約70名、　　　対象者：一般市民、障害者関連団体、環境保護団体等

事業費の金額：　432千円

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 4月16日、ドキュメンタリー映画「あい～精神障害と向きあって」京都上映会の開催

会場：ひとまち交流館　大会議室

来場者：約300名

プログラム：

* + 1. 京都の施設関係者代表挨拶（西村　直氏）
		2. ドキュメンタリー映画上映
		3. 宮崎信恵監督によるトーク
		4. フェア・プラスの活動紹介（河西　実）

協賛：積水ハウス京都支店

後援：京都市、京都市教育委員会、京都新聞福祉事業団

スタッフ：実行委員会メンバーを中心としたボランティア30名

1. マリナオ村より生産者代表の日本招聘、イベント開催

来日期間：6月21日（水）～6月30日（金）

フェアトレード関連イベント

6月24日（土）　アバカ実演とアバカ＆浴衣のファッションショー

　　　　　　　　（主催：フェア・プラス、企画運営：京都一加）

6月25日（日）　アバカ「マクラメ編み」技法実演とアバカ・アクセサリー作り体験

　　　　　　　　（フェア・プラス、シサム工房共催）

環境保護団体との意見交換

6月23日（金）　フィールドソサイエティー法然院森のセンター

6月27日（火）　日本自然保護協会

京都一加訪問

6月22日（木）　京都一加京都本店

6月28日（水）　京都一加東銀座店

マリナオ村生産者来日を通じて、京都一加との関係強化を図るとともに、マリナオ村生産者の自然保護の対する意識の向上を図ることができた。

1. プロジェクト関係者のフィリピン訪問

7月8日～15日　フェア・プラス関係メンバーがフィリピン・バギオおよびマリナオを訪問

バギオ：コーヒー生産者の視察

マリナオ：アバカ製品の品質向上のための打ち合わせ、共同作業場の視察

マリナオ村生産者にアバカ名古屋帯等の製作に関する品質管理・向上について指導を行う。このことは、今後の京都一加との取引拡大に向けて重要な意義があった。

1. ツキイチカフェの継続

〔2017年度開催ツキイチカフェ〕

5月14日　原　康子（認定NPO法人ムラのミライ　「対話型ファシリテーション」トレーナー）

「インド・おばちゃん信金を通じた本音の支援しない支援」

7月16日　今井　正人（積水ハウス㈱京滋シャーメゾン支店　医療・介護事業担当課長）

「事業を通じた社会課題の解決・・・積水ハウスだから出来ることは何か？」

9月10日　外村　まき（NPO法人チャイルドライン京都　理事長）

「『子どもたちの声を受けとめて』～チャイルドライン京都の実施から～」

10月15日　関　道子（京都光華女子大学　医療福祉学科　／京滋摂食嚥下を考える会）

「食べることの障がいとその支援について」～京滋摂食嚥下を考える会×KOKA☆オレンジサポーターズ～

　　11月19日　石崎　雄一郎（ウータン・森と生活を考える会　事務局長）

「ボルネオ島の熱帯林破壊と私たちの消費生活の関係」

　　12月10日　吉田　久美子（てりてりかんぱにぃ理事、ジョイント・ほっと管理者）

「精神に障害を抱える人たちが、笑顔になれる街づくりを目指して」

1月14日　河西　実（NPO法人フェア・プラス　常務理事・事務局長）

「フェアトレード商品は理解してくれる人だげが買ってくれればいい？」

2月17日　久山　慶子（フィールドソサイエティー　事務局長）

　「子どもたちと共に、身近な森の生きものたちから学ぶ」

　　3月18日　別府　一樹（認定NPO法人トゥギャザー　常務理事・事務局長）

「障がい者と社会の架け橋として」　～福祉事業所と企業の間で～

1. マスコミへの情報発信（京都一加による着物関係雑誌社への発信を含む）

5月28日発売ファッション雑誌GLOW：アバカ名古屋帯およびクラッチバッグを紹介

6月10日発売ファッション雑誌HERS：アバカ名古屋帯およびクラッチバッグを紹介

10月24日　夕刊フジボランティアガイド「勉強会『ツキイチカフェ』を開催」

1. 作業所製品販売事業

実施日時：通年　　　　　　　　　実施会場：京都ハンディクラフトセンター、NPO法トゥギャザー等

従事者の人数：延べ 約20名、　　　対象者：一般市民、外国人観光客、企業関係者など

事業費の金額：　1,003千円

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 西陣工房にて製作する京組紐のブレスレット（ブランドAKE）の販売
* 京都ハンディクラフトセンター、ゼロコネクションとの取引を継続
* 京都デザインハウスは2018年2月閉店となったため取引終了
1. 第三かめおか作業所にて製造する安納芋のスイーツの販売継続
* 安納芋のシフォンケーキの販売を継続。取引先の蜜香屋は、大阪にカフェをオープン、東京吉祥寺に出店。

c. トゥギャザーからの業務委託：作業所で製作するお菓子のパッケージデザインを受託（３団体）

1. フェアトレード商品販売事業

実施時期：通年　　実施場所：京都および東京の着物関係店舗、高島屋、阪急梅田百貨店、フィリピン・マリナオ村およびバギオ市など

従事者の人数：延べ　約60名　　　対象者：一般市民、学生、着物専門店、フィリピン生産者等

事業費の金額：　3,240千円

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 京都一加との共同開発商品（名古屋帯、巾着・信玄袋等和風小物、バッグ類）の販売

2016年秋から京都一加と共同開発を進めてきた名古屋帯と和風小物の発売を、4月下旬より京都一加で開始した。ファッション雑誌2誌で紹介されたこともあり、フェア・プラスより納品と同時に京都一加では完売するという状態が8月まで続いた。特に名古屋帯は品質の高さで好評を得て、マリナオ村での生産数が少ないこともあり、お客さんには常に1,2カ月待って頂く状態が続いた。

2017年の販売が非常に好調だったことから、2018年の発売に向け秋以降も継続してマリナオ村での生産を行ってほしいとの要望があり。マリナオ村では雨季明けの11月より生産を再開、名古屋帯については生産者が3名から5名に増加し、月産3本から5本に生産数が増加している。

1. 百貨店への催事出店
* 4月12日～18日　阪急梅田本店へ出店
* 5月10日～16日　高島屋洛西店へ出店
1. フェアトレードショップ等との取引
* シサム工房（本店、裏寺通り店）にて、Cradle Cradleアクセサリーを販売
* 国立民族学博物館にて、一般アバカ商品を販売
* 和望で一般アバカ商品および糸のじゅえりぃを販売
* 5月5日、梅田スカイビルで開催されたこどもの日チャリティイベントに出店
1. マリナオ村生産者団体への総合的支援
* 16人程度の生産者が作業できる、レンガ積みの共同作業場を建設
* アバカの苗木の植林：1ヘクタールの森林に500本の苗木の植林を行うとともに、以前植林した土地の整備を実施。
* 共同作業場を使用して、マクラメ編みトレーニングを実施
* ミシン、作業台、ハサミ等生産用具を提供
1. フィリピン・コーヒー生産者団体のフェアトレード認証取得への支援

バギオ地区コーヒー生産者２団体がフェアトレード認証を取得するための研修プログラム等を実施：フィリピン側パートナーCoordillera Green Network及びシサム工房との共同プロジェクト

以上